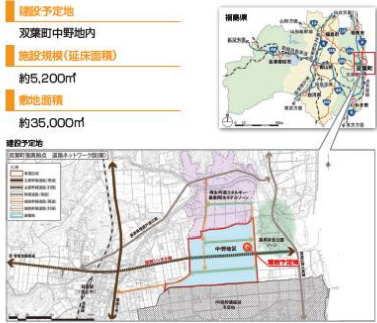
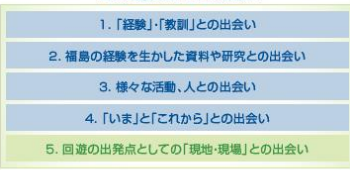



派遣先所属 福島県生涯学習課
 氏 名 市堀 智章 (いちぼり ともあき)
 派遣期間 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県生涯学習課では主に、震災の記憶と記録を未来に継承し世界に発信する情報発信拠点（アーカイブ拠点）施設の整備に関する業務に携わっています。震災から6年以上が経過し、震災の記憶の風化と震災関連資料の散逸が懸念され、それを防ぐため震災関連資料を収集するとともに震災とそれに伴う原子力災害での経験と教訓を広く発信するため展示や研修、研究の機能をもった情報発信拠点（アーカイブ拠点）施設を2020年双葉町に開所する予定となっています。

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点概要

事業概要	アーカイブ拠点施設の果たす役割	事業・活動の方針
東日本大震災及び原子力災害の経験と教訓を国や世代を超えて継承していく施設として整備 建設予定地 双葉町中野地区 施設規模(延床面積) 約5,200㎡ 敷地面積 約35,000㎡ 	～「みらい」へのゲートウェイ～ ここで創りだす5つの出会い 1. 「経験」「教訓」との出会い 2. 福島の経験を生かした資料や研究との出会い 3. 様々な活動、人との出会い 4. 「いま」と「これから」との出会い 5. 回遊の出発点としての「現地・現場」との出会い 	ふくしまの経験とそこから得た教訓を後世に残すための4つの事業と3つの活動  <p style="text-align: center;">ともに経験し、立ち向かった "オール福島"の夢園で推進</p> <p style="text-align: center;">企業団体 市民 自治体</p> <p style="text-align: center;">*「オール福島」が主導して、4つの事業をより効果的にするための活動</p> <p style="text-align: center;">人づくり 力づくり ネットワークづくり</p>

2020
東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、国内外にむけて福島への“出会い”を留意

■展示イメージ

事故前後の「事実」、福島の「経験」を「教訓」として発信し、未来への“原子力防災”や“まちづくり”に活かす

1 プロローグ
全体ガイダンス

- 何故も予測した避難
- 一瞬した日常
- 県民の怒り



2 災害のはじまり
原子力発電所事故安全神話の崩壊

- 災害の始まり
- 原子力発電所発事故



3 原子力災害の影響と対応(初期)
放射線からの避難事故への国内外からの注目

- 避難の困難や苦悩、人々の怒り
- 国内外からの注目、支援



4 県民の想い
県下全域の「記憶」と「記録」

- 県民の想いアーカイブ



5 原子力災害の影響と対応(長期化)
教訓を生かす原子力防災

- 原子力災害「経験」学習
- 原子力災害への対応の記録資料



6 復興への挑戦
ピンチをチャンスに復興の姿

- チャレンジ!ふくしま
- みらいの街



これからの福島を創る最前線(現地)へ

今までの業務では、アーカイブ拠点施設の展示及び建屋の設計に関する業務、アーカイブ拠点施設に関する関係者の勉強会の準備や、アーカイブ拠点施設の設立に向けて機運を醸成するためにフォーラムの実施に関する業務に携わりました。

フォーラムでは、情報発信拠点（アーカイブ拠点）施設の設立趣旨の一つである「情報発信」の大切さをテーマに福島県内の語り部団体の方による震災語り、有識者によるパネルディスカッション、福島県知事とタレントのサンドウィッチマンによる対談をとおして「情報発信する事の大切さ」について議論を深めました。



12/10 のフォーラムには約 200 名が参加



福島県知事とサンドウィッチマンの対談

生涯学習課は私以外全員プロパー職員で、課長、主幹そして課員が 7 名の計 9 名での構成となっています。課の職員のうち 4 名は主事で、全体的に若い人の多い課です。

同じフロアには、生涯学習課のほかにスポーツ課や文化振興課があり、どちらも若い方が多く活気あふれる職場です。

2. 被災地の復旧・復興の状況

震災から 6 年以上が経過し、震災を経験していない世代が増え、震災の記憶の風化も進んでいるのではないかと思います。県内には未だ帰還困難区域に指定され帰還できない住民や福島第一原子力発電所の廃炉など復興が終わっていない部分も多くあります。世界に類を觀ない複合災害の記憶や記録、教訓を後世に伝え、後の世代に引き継いでいくことの重要性を実感しています。

一方、福島県の面積は 3 番目に広く、埼玉・千葉・東京・神奈川を併せた程度の面積に匹敵します。震災で被害を受けた海沿いの地域と会津や福島市などの中通りは同じ福島県ですが、埼玉に住んでいる自分の感覚からすると他県に行くほどの距離があります。

私の住んでいる福島市では、埼玉県で暮らすのと変わりなく生活が営まれ、駅前の店では多種多様な美味しい酒や御飯を味わえ、多くの観光客や地元の方で賑わいを見せています。

「ふくしまの光と影」をしっかりと発信し、福島を正しく知ってもらうことが必要であると感じています。

3. 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県に派遣になって一番良かったのは、綺麗で広くて安いゴルフ場が沢山あることです。埼玉県だったら数万円するであろうクオリティーのゴルフ場が 1 万円近傍で楽しめます。また、日本酒は美味しく、食べ物は美味しく（特に焼き鳥！）暮らすにはとてもいい場所だと感じています。秋は県庁裏の川原で職員の芋煮会を行いました。埼玉にはない風習ですが、山形風や福島風などあるようです。寒い中で食べる芋煮はとても美味しかったです。

仙台まではバスで1時間程度、東京へは新幹線で1時間程度と都市部へのアクセスもいいです。
道路は広く、ついついドライブしたくなる道が多いように感じております。

住めば住むほど良さと奥深さが分かり、いろいろな方に訪れて欲しいなと思います。



所属する文化スポーツ局職員でのゴルフ（筆者2列目 左から2番目）